

第11回（平成29年度 第1回）横浜市自転車等施策検討協議会 議事録	
日時	平成29年10月25日（水）10:00～12:00
開催場所	関内中央ビル 10階 大会議室
出席者	委員：委員名簿を参照 事務局：17名 コンサルタント：1名
資料	式次第、委員名簿、説明用資料（資料1～資料2）、参考資料
<p>1. 開会</p> <p>①開会あいさつ （事務局）</p> <ul style="list-style-type: none"> ※開会あいさつ後、会議の公開、報道機関の傍聴、写真撮影等に関する説明 ※配布資料について確認 ※以降の議事進行を議長に引き継ぎ <p>2. 議事</p> <p>①自転車活用推進法を受けて （事務局）</p> <p>※資料1を用いて、「自転車活用推進法を受けて」に関して説明 （岡村会長）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・法律の解説を受けた計画の位置付けについて、ご質問はありますか。 <p>（絹代委員）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自転車活用推進法とそれに準じた推進計画の素案策定に携わる中で、健康、観光、防災、教育、環境等の面が手厚く話し合われている。健康面での自転車のメリットを伝える機会、学校での交通ルール教育等の取組が今後大きな課題となるため、市の庁内部署の連携強化という部分に加えて取り組んでいく必要がある。 ・横浜市では、学校教育との連携、子どもを中心としたルールの伝達等、国から出てくる推進計画に先駆ける様な思いで進めていけるとよい。青少年の体力向上、災害時の視点等も含め、国の推進計画の中で具体化されてくる。 ・観光に関して、ベイバイクを活用しながら、クルマに頼り過ぎず、自転車が不安なく観光できる環境づくりを進めていってほしい。 <p>（事務局）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市でも自転車活用推進法は追い風だと感じており、これまでは組織的に一緒に進めることが難しかった部署も含めて組織拡大できた。年内に国の計画素案が示されると聞いているので、整合性を図りながら計画見直しを図る予定である。次回協議会に検討内容を提示していきたい。 <p>②【まもる】施策について （事務局）</p> <p>※資料2を用いて、【まもる】施策に関して説明 （岡村会長）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ルールブックが策定され、活用が進んでいるとのことで、補足説明、感想などを含めて何かあれば。 <p>（絹代委員）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・横浜市のサイクルルールブックが完成し、配布したり、教材として活用したりできることは、素晴らしいこと。他自治体ではこれだけのものはなく、横浜市は胸を張ってよいと思う。 ・今後の問題は、どのように市民に交通ルールやその必要性、安全のための実際の行動等を、伝える方法で伝えていくこと。中学生向けの教室を実際に拝見したが、人口の多い横浜市では、少ない回数で 	

は全ての人には伝えられず、また子どもに伝わる形で伝えることは意外と難しい。スクールをやることが免罪符になるのではなく、スクールの質自体を考えなければいけない。

- ・全国的に同じ状況だが、情熱をもって子どもに伝わるような形で運営されている自転車教室はボランティアベースである。やる気のある人、競技選手等の自転車関係の方がボランティアで工夫して行っているが、委託で進めている所は型どおりの状況である。国の推進計画でも盛り込むことを依頼していることだが、来年度以降は質のある内容を評価しながらの自転車教室にスイッチしていただきたい。
- ・中学生への教育は重要であるが、中学生では遅すぎるということも感じている。小学校6年間の中で45分だけの教育で完璧なルールが身につくというのはほぼ不可能だと思う。繰り返し同じ情報を伝えていくことが重要だと思う。
- ・自身も保育園に入れているが、自転車に関するレクチャー、チラシ配布等はない。例えば、幼稚園、保育園、小学校の責任者が正しい情報をもって、保護会の時に伝える等の組織づくり、仕組みづくりができないかと感じている。
- ・小学校のPTA等で子どもの見回りのため、自転車でまちを走っているが、PTAやボランティアの方が両耳イヤホンで毎日走っている等、キーマンとなる人でも自転車ルールを正しく理解していない状況にある。キーマンとなる方に、しっかり正しい情報が伝わり、ルール順守で利用できる人を増やしていくことが重要。
- ・自身の経験として、母子手帳のタイミングは、母親になるということで色々な情報に目を通した記憶がある。母親、父親になる時に、自転車の正しいルール、暮らし方を啓発する環境を早く整えて、保育園、幼稚園、小学校、母親、父親というところから伝えていけば未来は変わると思う。
- ・スクールはやる気のある人材を如何に多く確保するかが肝になる。市内に住む自転車選手、自転車関係の方も多くいるため、そういった人材を組織として活用できるよう、ボランティアではなく、予算を確保して質のいいスクールを数多く展開できるような仕組みづくりが必要と思う。
- ・どんな方でもそれに則って子ども達に伝えられる自転車教室ができるような教材、素材をつくることも視野に、予算を確保した取組みができるとうい。

(事務局)

- ・市人口が非常に多いので、効率的な教育の仕方は重要な課題だと考えている。自転車総合計画の中でも世代別に進めていくこと、それを教えられる人材を確保することは大切である。
- ・人材の確保、教えられる教材づくりも総合計画の重要な柱と位置付けており、一部ではあるが取組を進めており、今後も着実に進めていくべきことだと考えている。
- ・中学生向け教室について、今年は入札方式で選定しているが、ご指摘の課題もあるため、提案型プロポーザル等、内容を評価できる仕組みで募集することも視野に入れていくことが必要だと感じている。市としても担い手の人がしっかりとした教育ができるよう、シナリオ、教材等を検討する必要があると思う。
- ・母子手帳に関しては、区役所との連携で実現できる可能性があるため、早急に調整していきたい。
- ・しっかりと教育できる人材の確保の困難さは、我々も常に感じているところであり、委員の皆様方のご意見、ご協力なども頂きながら、検討を進めていきたい。

(木村委員)

- ・中学校の交通安全教室について、翌年度の教育計画は早い時期にできているため、一コマを交通安全教室で使うことは、学校の教育計画自体を変更しなければならないことである。今回は希望された学校を対象としたと思うが、浸透させるのであれば早めに学校に知らせ、希望をとることが必要。
- ・今回のケースでは、事前に学校と打合せをしていたが、当日会場が変更になったり、学校によって熱量が大きく異なっていたり、色々な問題が発生した。早めに学校、教育委員会等と打合せをし、理解を頂きながら教育計画に盛り込んでいってほしい。プロポーザル方式等を考えて頂けるとのことだが、実態を見て反映できる仕組みにしてほしい。
- ・人材について、経験豊かな方がいらっしやると思うので、人材発掘が大切だと思う。

(事務局)

- ・教育委員会との調整等は、今回から庁内ワーキングメンバーに教育委員会も参加頂いている。活用推進法の施行を契機に、学校教育のプログラムに組み込めないか、強く申入れしていきたい。

- ・早めの調整については、可能な限り対応していきたい。

(岡村会長)

- ・こういうものは徐々に体系化し、ノウハウが積み上がっていく。今回から教育委員会も調整会議に入っているということで、これまでは言われて仕方なく、という部分が仮にあったとしても、担い手の側に入ったことが非常に大きいと思う。来年、再来年とパワーアップしていけるとよい。

(絹代委員)

- ・特殊なケースだが、長野県では県交通安全教育支援センターがあり、退官した婦人警官の人がインストラクターになり、グッズづくり等も含め精力的な自転車教室が行われている。国にも提案しているが、ルールをしっかり理解している人材とうまく連携する等、新しい枠組みが考えられるとよい。
- ・このケースは資金源を持ち、無償で交通安全教育を展開する非常に稀な組織であるが、自転車教室は人材の確保が難しい上に、開催側のモチベーションが高くないと、子ども相手に「伝わる」スクールの開催は難しい。このケースのような人材の活用も視野に、進めていけるとよい。
- ・二人乗り、無灯火、逆走など町中で色々な自転車の違反を見かける。県警の方には、ぜひ積極的に声かけや指導等をしていただければと思う。

③【はしる】施策について

(事務局)

※資料2を用いて、【はしる】施策に関して説明

(岡村会長)

- ・2駅でのモデルが出ているが、事務局補足あれば。

(事務局)

- ・別紙に「戸塚駅周辺まちづくりに関する意見募集」の資料があるが、これは地元町内会、交通事業者、行政からなる「戸塚駅周辺の住み続けたいまち・みちづくり検討会議」が開催しているもので、駅前広場の混雑、バリアフリー化、魅力向上、都市機能の増進等様々な課題の一つとして、自転車利用環境の向上について意見を集め、進めている所である。

(絹代委員)

- ・自転車側だけに伝えても環境づくりは難しく、ドライバー側の理解・協力があり、同じ道を自転車とクルマがシェアすることの理解が成功の肝と思う。
- ・車両混在、専用通行帯など整備形態による所もあるが、日本語が分からなくても通り方がわかる、横浜らしい路面表示を心がけて頂きたい。
- ・各地でクルマが自転車を追い越す際の「思いやり 1.5m 運動」が広がっている。追い抜く際のドライバー側の意識を促すためにもこのような運動の導入は良いと思う。クルマに対しての啓発も視野に入れて取り組んで頂きたい。

(事務局)

- ・今回の総合計画では「自転車に乗る人も乗らない人も快適に過ごせる街」を目指すもので、ドライバー側への啓発も大切と感じている。車道混在型の法定外の路面表示でも、ドライバー側への見える化の観点から整備の意義は高いと思う。
- ・「思いやり 1.5m 運動」は、事務局としても非常に注目しており、横浜市でも何らかの形として進めていきたいと考えている。

(岡村会長)

- ・「駅周辺」とは、言葉は簡単でも、実際にはとても難しい考え方と感じている。
- ・歩車道が分離されている所であれば、車道側に矢羽根型を含めて通行空間を確保できる。一方で、一本奥に入れば歩道がなく、路側帯だけ、または路側帯すらない、という所では、歩行者と自転車どのように道路をシェアするのか、恐らく場所によって異なるものであろうと思う。
- ・駅周辺での空間の適切な使い方という話になれば、それは自転車だけの話でないため、積極的に市民に問いかけし、上手な折り合いの付け方を市民側が理解し、最終的に施策に移る方法であれば、ぜひ進めていただければと思う。

④【とめる】施策について

(事務局)

※資料2を用いて、【とめる】施策に関して説明

(絹代委員)

- ・附置義務制度は、他都市のほとんどが導入しているとのこと、良い方向と思う。
- ・駐輪ガイドブックは、委員会の中でも過去に議題が上がっており、良い方向と思うが内容については心配な部分がある。単に他地域のベストプラクティスが紹介されるだけでなく、例えば建物に関係ない人が駐輪してしまう場合の対応や、駐輪時間帯が異なっている場合の話し合いによる駐輪場の融通方法、駐輪場を整備する際の費用確保の可能性など、駐輪対策をしようとする際の基礎になる情報を詰める認識でいた。
- ・内容について、地域の取組紹介だけなのか、対策を講じる際の拠りどころ、基本的なルール等を盛り込むものかどうか、教えてほしい。

(事務局)

- ・表現の仕方での誤解が生じたかもしれないが、委員の指摘の通り、例えば法的な根拠であるとか、取組を進める場合の問い合わせ先など、ノウハウを網羅したものを公表していく予定である。

(福田委員)

- ・附置義務制度は色々な他都市で整備されているということだが、企業経営、企業活動の阻害要因にもつながる場合がある。必要最低限にして頂きたいと思う。
- ・効果的に駐輪場を整備する観点で、例えば地下街が駐輪場を増設すると考えると整備は難しいとか、丘の上にある店舗であれば駐輪場を設置しても利用されない状況もあると思う。市域一律ではなく、地域の事情にあった設置義務等の対応も検討いただきたい。

(事務局)

- ・附置義務制度を検討している状況であり、頂いた意見も参考に、過剰な設置を求めすぎない、現状に合った制度にしていきたい。制度を始める際は、委員の皆様、関係事業者、団体等に、説明に回らせて頂きたいと思っている。

(岡村会長)

- ・④駐輪対策方針の当面の目標としてはこの通りだと思うが、駅周辺で行われる実際の取組みの中では、例えば駅から5～10分程度の所からは徒歩で来てほしい、バスをもっと使ってほしい等の要素が一緒になってくる。一方で、駐輪対策と言ってしまうと、放置自転車等の問題の駐輪をどこに収容するか、というイメージになる。
- ・自転車の活用推進という面では、健康、環境などの視点で自動車から自転車への移行は良いことと思うが、歩ける、バスが使える、という状況にある人に対して、場合によっては自転車利用を少し我慢していただくことも理屈としてはあり、これを含めて市民に理解いただく説明は、難しいことと思う。
- ・自転車利用を推進していく一方で、整備ができないことや場合によっては徒歩での移動を求める部分の不整合を何とかしていく必要があり、地区によって違う自転車を利用してほしい場面、別の手段を検討してほしい場면을適切にマネジメントしていく考え方も含め、それが方針になると思う。
- ・市全体の方針、個別エリアの考え方、地域それぞれの場の中で明示し、市民にもしっかり伝えていく、市民が前面に出るような形で検討していただくのが良いのではないかと思う。

(事務局)

- ・非常に難しい課題であるものの、総合計画の理念でも、状況次第では利用を控えて頂くような場面もあることを、委員の方々からの意見も頂きながら示しているため、駐輪対策方針の中でも検討していきたい。

(岡村会長)

- ・「とめる」の取組は、制度等も含めて色々な条件があるため、今後の検討の肝になると思う。引き続きしっかりお願いしたい。

⑤【いかす】施策について

(事務局)

※資料2を用いて、【いかす】施策に関して説明

(絹代委員)

- ・自転車活用情報のポータルサイトは、閲覧を確保していくために更新し続けることが、結構な仕事量となり大変ではあるが、期待をしたい。
- ・コンテンツについて、どのくらいの人が閲覧するか不安がある。つくるのであれば、横浜市が行う交通安全教室、自転車の取組等を報告していくこともよいと思う。例えば、実施した小学校での自転車教室での内容、市が力を注いでいる取組報告等をしてはどうか。
- ・協力してくれる人材、NPOなど、そういった団体と連携し、情報発信しながら、固定の情報だけでなく、更新できる情報、イベント情報等を出していける枠ができるとよいと思う。
- ・自転車活用推進法は、自転車の日本という国に対してのメリット、恩恵を踏まえて活用しようとする理念がある。情報提供に際して、なぜ自転車を推進していくのかという礎の部分も盛り込めるとよい。
- ・自転車保険については、費用面での障害が大きいと感じる。また、加入方法が複雑なためシンプルな保険が必要という人向けのトピックスと、保険の必要性を理解し適切な保険を選択したい人向けのトピックスは、方向性が反対側になるため、伝えることが難しい。
- ・広報として、過去の高額賠償事故に照らし、入ることを推奨するだけでなく、保険を加入することで何らかの優遇措置がある、火災保険・自動車保険の付帯保険のオプションで選べる、等のプラスアルファの情報を含めた情報伝達の形が必要だと思う。現状では、条令で縛っても罰則がないため、加入率が実質上がらないというのが印象である。
- ・加入による自分達自身へのメリットをしっかりと伝え、費用と比べてみて入ろうと思える情報発信と、年齢等の分かりにくいハードル等の問題を含めシンプルに加入できる保険など、二手に分けて情報発信していくとよい。ポータルサイトの中でも、ぜひかみ砕いた情報発信ができるとよいと思う。

(事務局)

- ・WEBサイトについて、事務局内部でも検討段階で、内容に関して色々な議論が出ている。市の取組、NPOとの連携等も検討しているところもあるが、日々の更新、管理の課題への対応が難しい状況で、今回の提案内容にとどまっている。今後、皆さまからの意見を受けて検討を進めていきたい。
- ・自転車保険について、分かりやすく噛み砕いた形での広報の必要があると感じている。一方で、実際の啓発は、広報物の配布等、地道な作業を続けていくのだろうと思っている。効果的な新たな手法等も含め、しっかり対応していきたい。

(鈴木委員)

- ・WEBサイトの内容について、自転車のメンテナンスや点検等の情報が足りないと感じる。静岡、京都の参考事例もそうだが、自転車の活用を推進したり、保険に入ったりしたりしたとしても、コンディションの悪い自転車で乗る人が増えるだけでは問題。事故の発生や、乗り捨て等に繋がる可能性がある。
- ・メンテナンス・点検は自転車屋でなくても、まめにタイヤに空気を入れることなど、セルフメンテナンスができることもあり、しっかり情報を伝えていきたい。とくに、子ども載せの自転車で、母親が一人で乗っているときでもタイヤに空気が入っていない状況を見かけ、子どもを乗せたら大変なことになると感じている。このような部分も伝えていけるとよい。

(事務局)

- ・メンテナンス・点検・整備の件は、ご指摘の通り不足していると感じるため、項目をつくっていききたい。情報を作成する際には、自転車組合にも協力してできればと思う。

(金子委員)

- ・WEBサイトのコンテンツの件は今回が初出と思うが、トップページ下の4項目は並列で無いのではないかと思う。例えば、放置自転車の保管場所の情報は、市としては伝えたい情報と思うが、4項目の一つかと言われれば違う。先のメンテナンス情報の件、市の政策の伝達等の自転車の活用の方向性とは別に、個別の件として駐輪場検索等がある。項目分け、分類分け等は引き続き検討が必要である。
- ・自転車のことを調べる際に、トップページから入る人だけでなく、教育関係等、他のサイトから入ってくることもある。自転車のことを全部まとめたサイトをつくることは進めるとして、それぞれの部局が持つ自転車に関するWEBページとのリンクのしかたも含め、引き続き検討いただきたい。

(今村委員)

- ・WEBサイトのネーミング案で「サイクルステーション」という言葉は、ゴミ分別の「リサイクルステーション」のイメージが先行し、紛らわしさを感じる。代替案として「サイクルライフ」「サイクルプラス」など、誤解を招きにくいネーミングの検討も必要と思う。

(木村委員)

- ・WEBサイトに関して、学校は「Y・Y-NET」というものがあり、全学校が網羅されている。これとリンクすることで、例えば学校で自転車保険の話になれば、Y・Y-NET を経由して、自転車保険の情報を個人紹介できる。さらに自転車に興味を持った人が深堀できる、という部分もあると思う。教育委員会とも調整して進めるとよい。

(岡村会長)

- ・持ち帰りの内部検討事項もあると思うので、議論をしっかりと願います。議事は一通り終了したため、今後の予定などを含め事務局より願います。

⑥今後の予定について

(事務局)

- ・ありがとうございました。頂いた意見を参考として、今後も市の自転車計画を力強く進めていく。
- ・次回は年度末あたりの開催を予定としており、具体的な日程等は追って連絡する。

以上